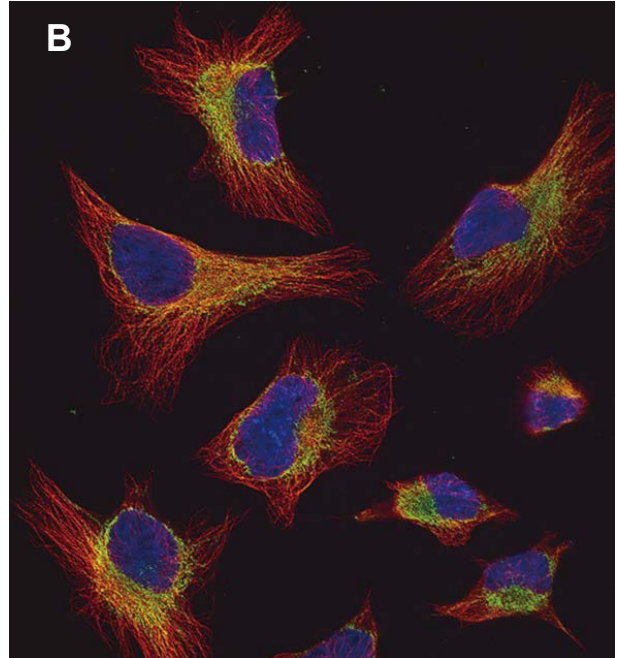
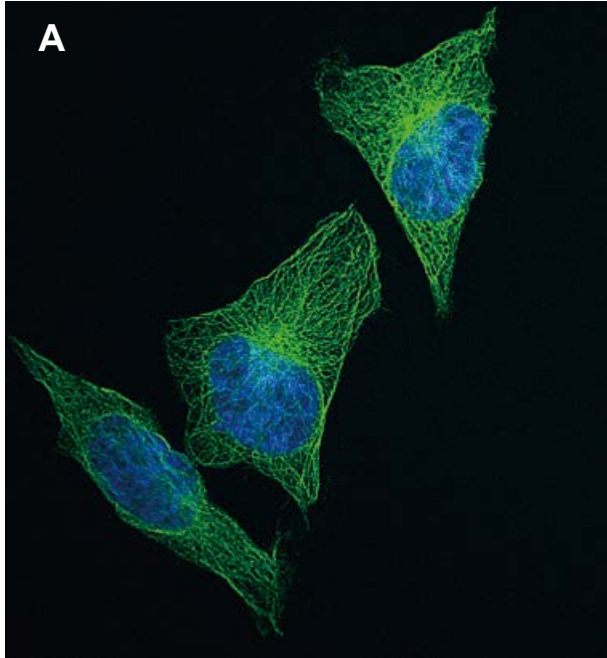


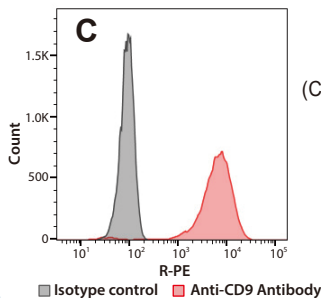
細胞生物学用試薬

蛍光染色剤

使用例



- (A) 一次抗体として Mouse Anti- α -Tubulin Antibody を使用し, Goat Anti-Mouse IgG Biotin Conjugate [G0387] と Streptavidin FITC Conjugate [S0966] を用いて染色 (緑色) 後, さらに DAPI·2HCl [A2412] を用いて核を染色 (青色) した HeLa 細胞。オリンパス社の FLUOVIEW FV3000 にて撮影した。
- (B) HeLa 細胞の核を Bisbenzimidazole H 33258 [H1343] で染色 (青色)。チューブリンを一次抗体および Goat Anti-Mouse IgG Biotin Conjugate [G0387], Streptavidin R-PE Conjugate [T3885] を用いて染色 (赤色)。ミトコンドリアを一次抗体と G0452 を用いて染色 (緑色)*。オリンパス社の FLUOVIEW FV3000 にて撮影した。



- (C) HeLa 細胞を Mouse Anti-CD9 Antibody (赤線) またはアイソタイプコントロール抗体 (黒線) と共にインキュベートし, Goat Anti-Mouse IgG Biotin Conjugate [G0387] と Streptavidin R-PE Conjugate [T3885] を使用して染色した*。測定は, シスメックス社のフローサイトメーター RF-500 にて実施した。

* 染色の条件については弊社製品ページをご覧ください。

R-PE あるいは FITC で標識した抗 Mouse IgG, 抗 Rabbit IgG 抗体および Streptavidin は, 蛍光免疫染色とフローサイトメトリーにご使用いただけます。

Goat Anti-Mouse IgG FITC Conjugate (緑色蛍光)

0.1mg/vial 12,000円 [G0406]

Goat Anti-Mouse IgM FITC Conjugate (緑色蛍光)

0.1mg/vial 12,000円 [G0453]

Goat Anti-Rabbit IgG FITC Conjugate (緑色蛍光)

0.1mg/vial 12,000円 [G0452]

Streptavidin FITC Conjugate (緑色蛍光)

0.1mg/vial 12,000円 [S0966]

Goat Anti-Mouse IgG R-PE Conjugate (赤色蛍光)

0.1mg/vial 12,000円 [G0569]

Goat Anti-Rabbit IgG R-PE Conjugate (赤色蛍光)

0.1mg/vial 12,000円 [G0577]

Streptavidin R-PE Conjugate (赤色蛍光)

0.1mg/vial 12,000円 [T3885]

Goat Anti-Mouse IgG DTBTA-Eu³⁺ Conjugate (赤色蛍光)

0.1mg/vial 40,000円 [G0505]

Goat Anti-Rabbit IgG DTBTA-Eu³⁺ Conjugate (赤色蛍光)

0.1mg/vial 40,000円 [G0506]

Streptavidin DTBTA-Eu³⁺ Conjugate (赤色蛍光)

0.1mg/vial 40,000円 [S0993]

DAPI·2HCl (青色蛍光)

5mg 5,300円 [A2412]

Bisbenzimidazole H 33258 Hydrate (青色蛍光)

25mg 5,500円 [H1343]

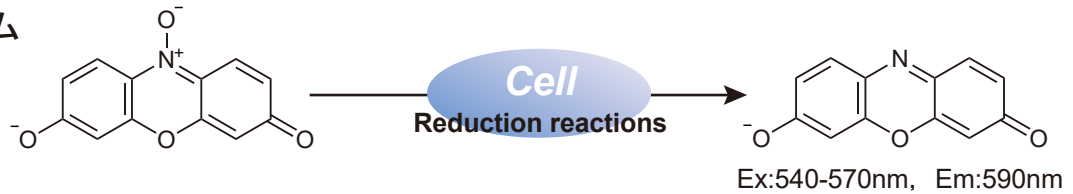
※DTBTA-Eu³⁺ 標識したプローブの高感度検出には時間分解蛍光測定が必要です。

細胞増殖アッセイ試薬

Resazurin (Ready-to-use solution) [for Cell proliferation assay]

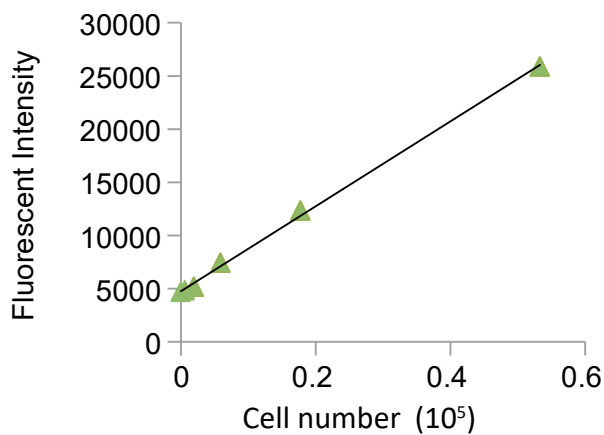
25mL 12,000円 [R0195]

メカニズム



レサズリン溶液 [R0195] は細胞増殖や生存率、細胞傷害活性を測定できる試薬です。生細胞に加えられた非蛍光性青色色素のレサズリンは細胞内の酵素により還元されて強い蛍光を持つレソルフィンに変換されます。本アッセイ法は細胞毒性が低く、洗浄や培地の除去、抽出操作などが不要無いためハイスループットのアッセイ等に適しています。

Cell viability assay



利用例

1. 細胞培養液の 10 分の 1 量の R0195 を添加
2. 細胞培養容器をインキュベーターに戻し、2-24時間保温する。
3. 蛍光 (Ex:540-570nm, Em:590nm) を測定する。
*570 nm の吸光度で測定することも可能です。

レサズリン溶液 [R0195] は細胞培養のいずれのタイミングで添加することが可能です。良好な測定をするには、対数増殖期の細胞に添加することを推奨いたします。

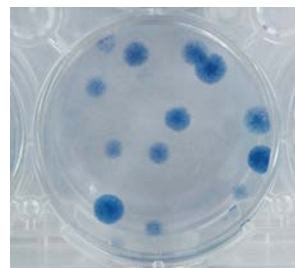
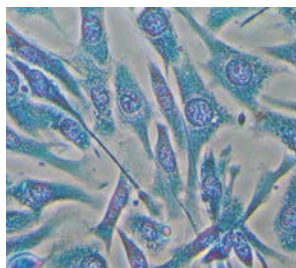
色素染色剤

Methylene Blue Solution (Methanol Solution) [for Cell Staining]

100mL 4,000円 [M2392]

利用例

- ① 細胞を6ウェルプレートで培養
- ② プレートから培地を取り除き、PBS(-)で2度洗浄
- ③ PBS(-)を取り除き、M2392を1 mL加えて15分間染色
- ④ M2392を取り除き、脱イオン水で2度洗浄



NIH/3T3細胞を一定期間培養した後、①～④の手順で染色した写真

染色時間および溶液の容量は細胞によって調整して下さい。
細胞によっては適切な固定処理を必要とする場合があるため、予備検討をお勧めします。

Acridine Orange Solution [for Cell Staining]

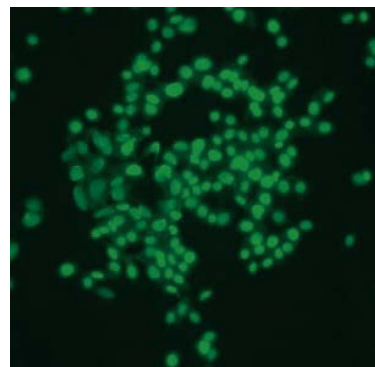
5mL 4,000円 [A3396]

アクリジンオレンジは死細胞の染色に用いられる核酸染色色素です。二本鎖DNAの3塩基対に対して1つの割合で取り込まれ緑色蛍光(Ex:500nm, Em:520nm)を発します。またRNAや一本鎖DNAと結合すると赤色蛍光(Ex:460nm, Em:650nm)を発します。アクリジンオレンジに変異原性があるため、秤量時の飛沫を防ぐことが出来る溶液タイプにてご提供しております。

使用例：A3396を用いた細胞染色方法

1. 細胞を培養し、プレートから培地を取り除き、PBS(-)で2回洗浄
2. PBS(-)を加え、さらにPBS(-)の50分の1量のA3396を加え、15分間染色
3. 染色液を取り除き、PBS(-)で2回洗浄
4. PBS(-)を加え、観察

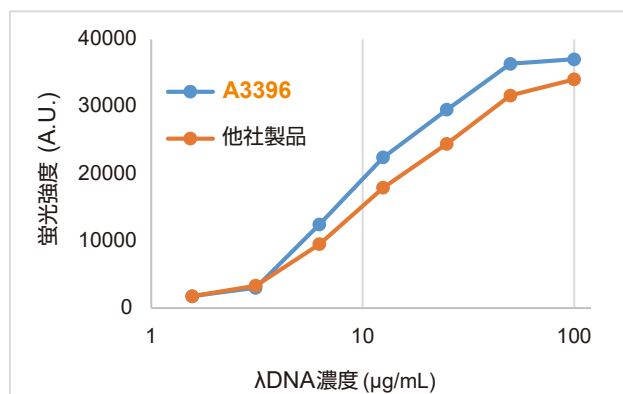
染色時間および溶液の容量は細胞によって調節して下さい。
細胞によっては適切な固定処理を必要とする場合があるため、予備検討をお勧めします。



NIH3T3をA3396で染色した蛍光顕微鏡画像

アクリジンオレンジ溶液 [A3396] と他社同等製品を用いてλDNAを染色し、蛍光を測定しました。(Ex:500nm, Em:520nm)

A3396は、他社製品によるものと同等以上の発色があると示されています。

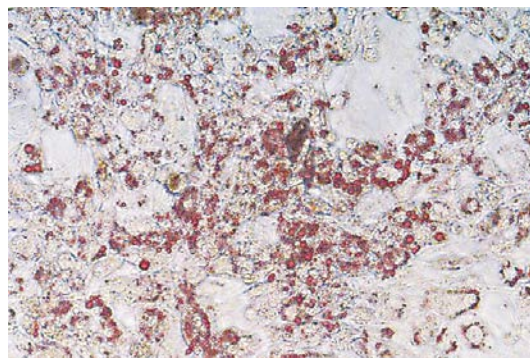


Oil Red O [for Biochemical Research]

25g 4,800円 [O0483]

オイルレッドOは古くから脂肪細胞や中性脂肪の検出に広く用いられているアゾ色素のひとつで、低極性の脂質を赤色に染色します。

使用方法は簡便で、染色液を添加後、洗浄するだけで染色でき、視覚的に脂質を識別することも容易です。さらに、染色後にイソプロパノールを用いて色素を溶出させ、吸光度を計測することで脂質の蓄積量を定量することも可能です。



3T3-L1細胞に脂肪細胞分化用培地を添加後10日培養しO0483 1mg/mLで染色

細胞用抽出試薬

RIPA Buffer (Ready-to-use) [for Protein extraction]

100mL 8,000円 [R0246]

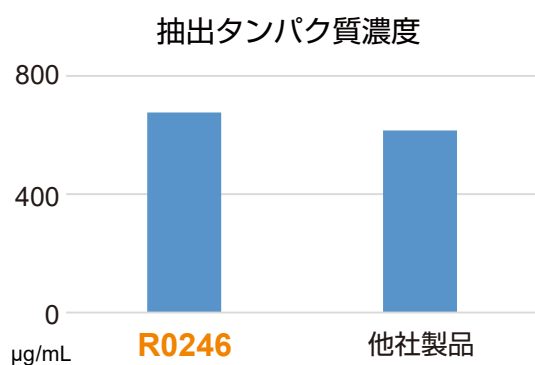
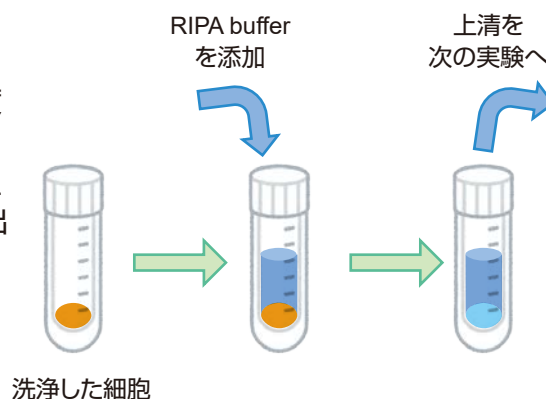
RIPA buffer [R0246] は、哺乳類培養細胞からタンパク質を抽出する際に使用します。培養した哺乳類細胞を本製品に溶解するだけでタンパク質が抽出でき、抽出されたタンパク質はそのままウェスタンブロットなどのアプリケーションに使用することができます。本製品にはプロテアーゼ阻害剤は含まれておりません。

利用例

RIPA Buffer [R0246] に以下のプロテアーゼ阻害剤を混合する(濃度は終濃度)。

ロイペプチン	10 µg/mL
ペプスタチンA	1 µg/mL
アプロチニン	3 µg/mL
AEBSF	1 mM

1. 培養したマウス骨髄腫由来細胞 sp2/0 を PBS にて 2 度洗浄し上清を吸引。
2. プロテアーゼ阻害剤入り RIPA Buffer [R0246] 200 µL と、同じプロテアーゼ阻害剤入り他社タンパク質抽出試薬 200 µL にそれぞれ細胞を 1.0×10^6 ずつ添加して氷上で 15 分静置。
3. 10,000 x g, 4°C, 10 分間遠心する。
4. 上清を抜き取り、上清中のタンパク質濃度を測定。
5. 抽出した上清をそのままウェスタンブロットに用いる。



ウェスタンブロット

抽出したタンパク質を電気泳動後、PVDF膜に転写。anti-β actin抗体を用いて検出。他社製品と同等以上の検出が可能。



東京化成工業株式会社

■本社営業部 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-10-2 TCIビル2階
Tel: 03-3668-0489 Fax: 03-3668-0520
E-mail: Sales-JP@TCIchemicals.com

■大阪営業部 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜1-1-21 第2中井ビル1階
Tel: 06-6228-1155 Fax: 06-6228-1158
E-mail: osaka-s@TCIchemicals.com

□化成品部 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-10-1
Tel: 03-5651-5171 Fax: 03-5640-8021
E-mail: finechemicals@TCIchemicals.com

弊社製品取扱店

やむを得ず品目の削除や掲載内容の変更を予告なく行う場合があります。
内容の一部または全部を無断で転載あるいは複製することをご遠慮ください。